

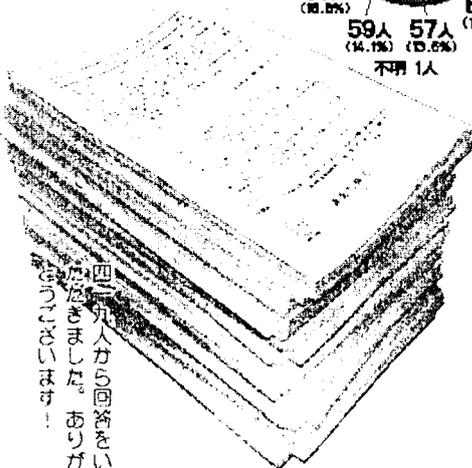
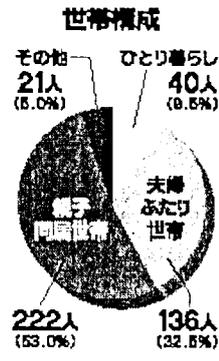
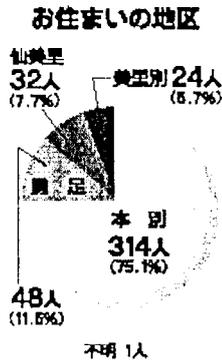
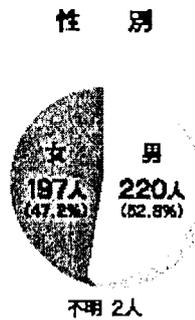
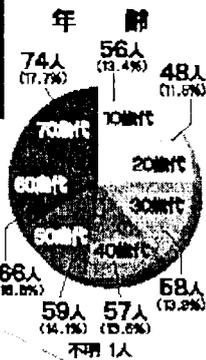
# 町民アンケート

計画を創り出す過程に意義がある！  
本別町地域福祉計画

平成十六年度内の策定にむけて現在取り組みを進めています。「地域福祉計画」(厚生労働省のモデル指定を受けています)の貴重な資料とするためアンケート調査を二月に実施しました。この計画は、「1万人が家族のまちづくり」を進めるための「まちづくり計画」でもあり、計画を創り出す過程で人をおこし、町をおこし、豊かなコミュニティを築くこと、各地域の皆様の「声」「想い」「活動」を反映させることが重要です。五月号では地域座談会で寄せられた意見をお知らせしましたが、今月号ではアンケートから町民の皆様の方え方にどんな傾向がみられたのか報告します。

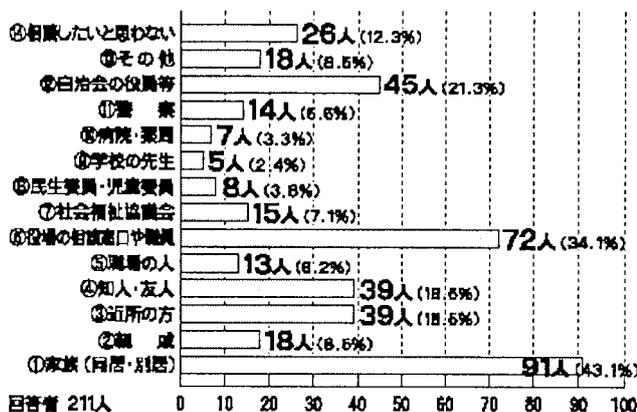
## 「回答いただいた皆様の基礎データ」

- 調査実施時期：平成十六年二月
- 配布・回収方法：郵送配布・郵送回収
- 調査対象：町内に居住する十二歳(中学)から七十歳代の中から、無作為に七〇〇名を抽出
- 回収率等：配布数 七〇〇票  
回収数 四一九票  
回収率 六〇・〇%

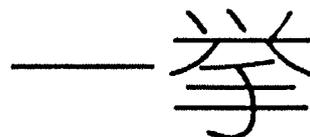


## 問7

あなたは、前問（問6）で記入していただいた困り事や悩み事等について誰に相談したいと思いますか？（〇は3つまで〈ひとつでもがまいません〉）



困りごとや悩み事の相談者については、男女別での特徴はみられず、年代別では10歳代が「①家族」が最も多くなり、30歳代では他の年代と比較すると「⑧相談したいと思わない」が多くなりました。50歳代では「⑥役場の相談窓口や職員」（16.9%）、「②自治会の役員等」（16.9%）が「①家族」（10.2%）よりも高い数字となりました。地区別では湧足地区で⑥（22.8%）が、美里別地区では②（25.0%）が他の地区より高い数字となりました。

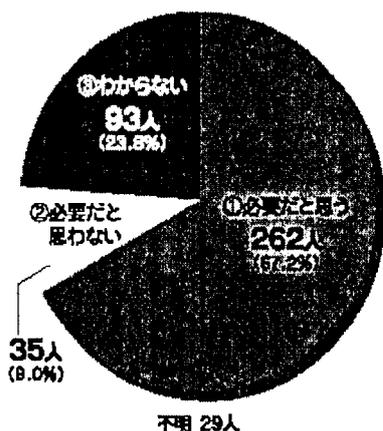


このことを地域福祉計画に生かし、全町民で共有するために、問いかけたすべての設問の回答を掲載します。

## 問8

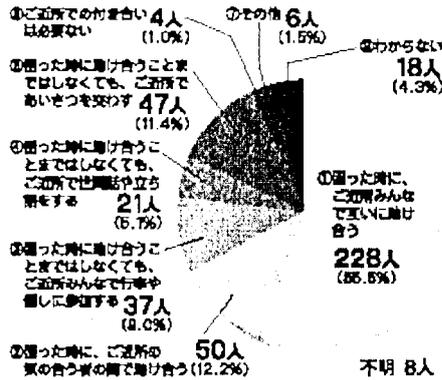
あなたは、日常の暮らしの中で抱える困り事や悩み事等を解消するために、住民同士の自主的な協力関係が必要だと思いますか？

住民の自主的な協力活動に関する回答では男女差がみられなかった。「①必要だと思う」が男性（70%）に対し女性（五四・八%）となり、「②必要だと思わない」は男性（二六・四%）、女性（二〇・二%）でした。女性は「③わからない」が二七・四%を占めました。年代による特徴は、四十歳代以上の年代層では「①必要と思う」が六割以上となりました。十歳代では「①」は四割に満たない回答数で、「③わからない」が四八・二%と約半数となりました。

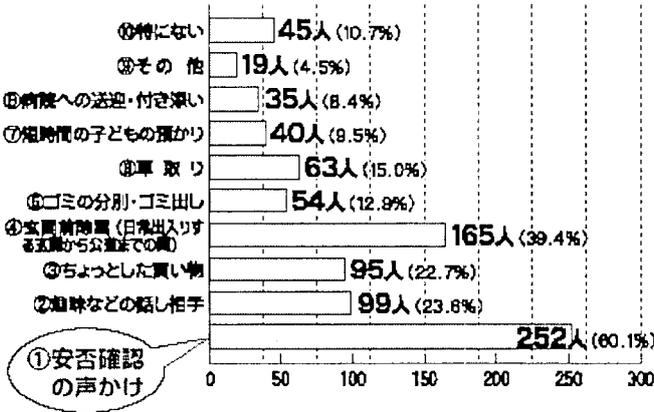


# 公開!

全町内の各世代の  
広い範囲にお聞き  
し、届いた皆さん  
からの「声」、こ  
の結果は本別町民  
の意識の傾向を物  
語っています。



**質問4**  
あなたは、ご近所でのお付き合いはどの程度が望ましいと思いますか?  
(○はひとことだけ)



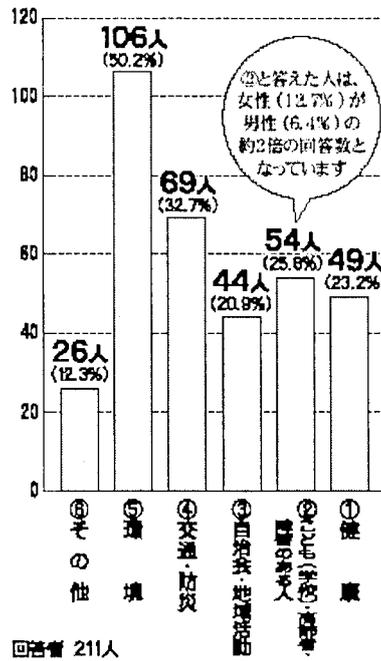
**質問5**  
あなたのご近所で困っている人に対して、「こんな事なら私にもできる」ということは何ですか?  
(○は該当するものをすべて)

座談会においてカト下記入をいたした生活課題について、アンケートにおいても同じ設問を行いました。回答いただいた結果では、生活環境分野が最も多く、次いで交通安全・防災、その他(子育て・高齢者・障害のある人、健康の順となりました。

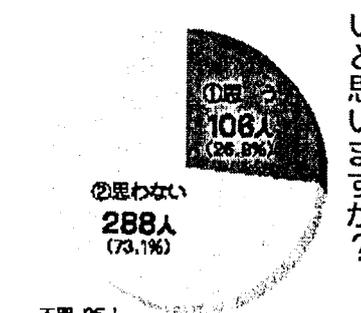
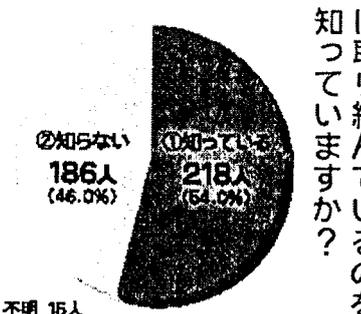
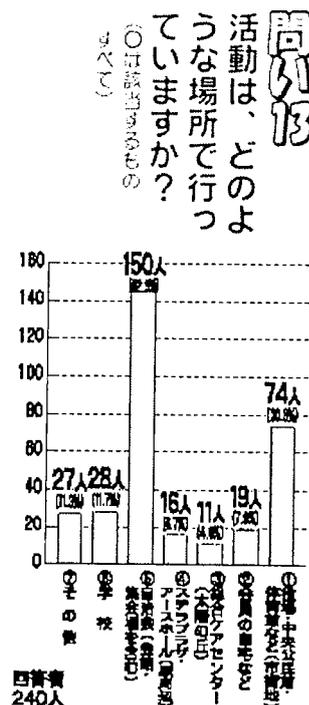
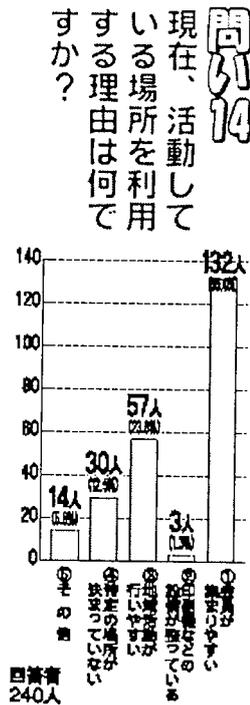
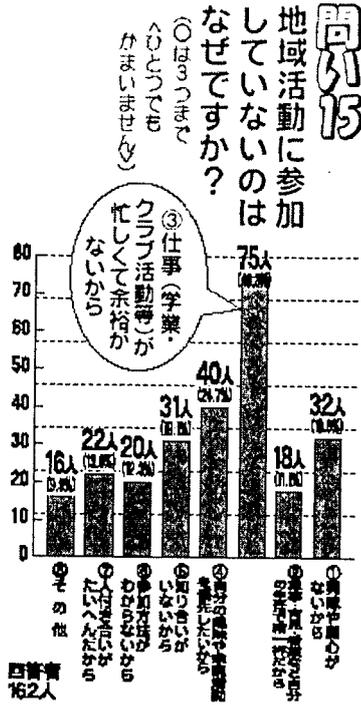
男女別でみると女性の方が悩みを抱えている結果が出ました。

男性では健康・自治会・地域活動・健康の順となり、女性は健康・交通安全・防災・健康の順となりました。年代別では、二十、四十歳代の記入回答が多くありました。十歳代から六十歳代まで健康分野に関する回答が最も多くなり、七十歳代では自治会・地域活動が多くなっています。②の回答では十歳代から三十歳代に比較して四十歳代から七十歳代の回答が高い数字となっています。

地区別の特徴では、男足地区で②の比率が二〇・八%と他の地区より高い数字となりました。仙美里地区では②が、美里別地区では③が高い数字を示しました。



**質問6**  
あなたや、あなたのお住まいの地域では、日常の暮らしの中で何か困り事や悩み事を抱えていますか?



### 中央公民館ロビー展

#### みんなで考える地域福祉

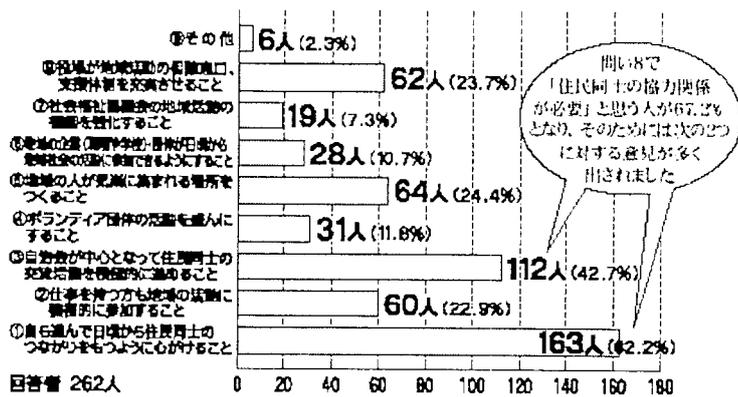
期間:5月11日(火)~20日(木)

地域福祉の取り組みを知っていただくため、座談会やアンケート結果を中心としたパネル展を開催し、たくさんのご来場をいただきました。ありがとうございました。

**展示物**

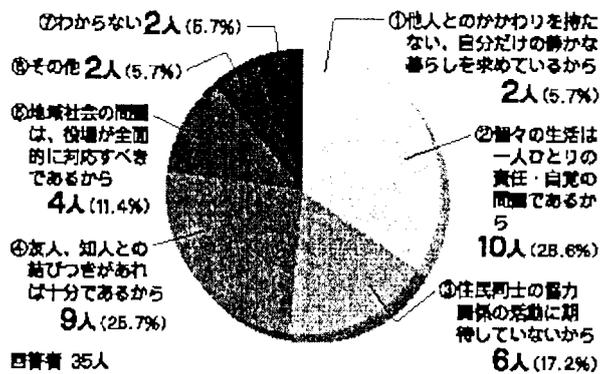
- 座談会での各地区のカード(課題)と出された意見
- 座談会写真
- 町民アンケート結果
- 町職員向け地域福祉計画日より

みんなで考える地域福祉



**質問9**  
住民同士の協力関係を築くためには、どんなことが必要だと思いますか？  
(〇は該当するものをすべて記入してください)

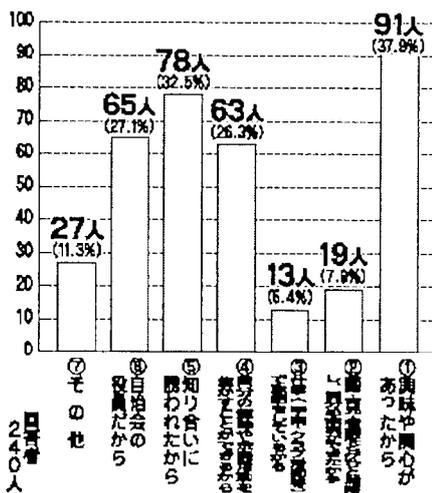
問い8で「住民同士の協力関係が必要」と思う人が67.2%となり、そのためには次の2つに対する意見が多く出されました



**質問10**  
住民同士の協力関係は必要ないと思う理由は何ですか？  
(〇は該当するものをすべて記入してください)

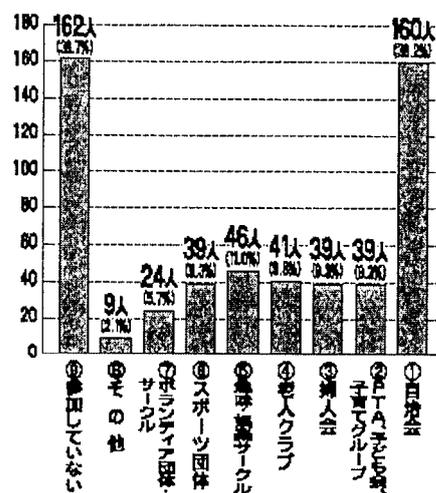
地域活動に参加したきっかけは何ですか？  
(〇は3つまでくひとつでもかまいません)

**質問12**



あなたは、現在、どのような地域活動に参加していますか？  
(〇は該当するものをすべて)

**質問11**



もっと  
ふれあいの場を...

自治会の中で助け合える仲になるまでにはかなりの時間が必要だと思います。その中でどれだけ信頼し合えるか、とても難しいこと。「1万人が家族のまちづくり」を進める事は、まず、あいさつなど人と人とのふれあい関わり合いから始まると思います。

「1万人が家族」を進めるためには、町民一人一人が「家族」と思えるようなまちにしていかないといいけないと思う。「家族」とはいろんな事に協力し、困ったときは助け合い、楽しい時には一緒に楽しむというもので、町民の人みんなが楽しめるイベントや施設を増やして、ふれあいの場をもっと増やすべきだと思います。本別町がそれを主催してくれなければ高齢者の方々はなかなか自分たちだけではふれあいの場をつくることは難しいと思う。そして、若い人とお年寄りの方々がふれあうことにより年齢関係なく1万人の方がふれあえるようになると思う。

私たちの自治会の班では、互助会という組織を設け、毎年花見を開催し、全世帯が家族ぐるみで出席して、親睦を深めている。最下部の班組織が大きくなって、1万人が家族のまちづくりの原動力になっていくと思う。私はまず、班の中で自ら進んで住民同士のつながりを築いていく心がけていこうと思っています。

私は老人クラブに所属していますが、もう少し社会に寄り添える内容であれば不満に思っておりません。クラブの役員たちと接触する立場にある方々に願いたいのは娯楽に片寄りちな老人クラブの運営に多少なりとも町に役立つような事を行うよう啓もうしていただきたいのです。例えば公共の場の花植え等町民の交流を兼ねて実施し町の節減の一助にしつつ老人パワーを有意義に使用するとか。

「まちづくり」に興味、関心がないわけではあありませんが、一部の人が頑張っているという印象があり、「きっかけがないから動けない」というところでしょうか。「まちづくり」に子供も参加できる機会をたくさん持たせてあげたいと思います。なぜなら、幼いころの積み重ねが「本別大好き」になり、「一生この町に暮らしたい」と「まちづくりに参加したい」という気持ちになるのではないのでしょうか。高校を卒業してから、いくつかのまちに住みましたが、やはり本別が一番安心して暮らすことができると実感しています。私が若い世代か、まだ「まちのために何かしよう」とかという行動にまで結びつくにいたりませんが、子育てを通して自分のできる事を探していきたいと思えます。

自治会の班の中から助け合いの輪を作り皆さんが安心して暮らす事のできるよう心を開いて語り合える事から始めたら良いと思う。そのことが自治会の活動として広がっていき大きく自治会連合会の活動として進むことが最高だと思つた。自分で自分たちでできることは仲間や人を任せるとは思わない。福祉活動進んでボランティア精神が、一歩であると思う。

行政が先頭に...

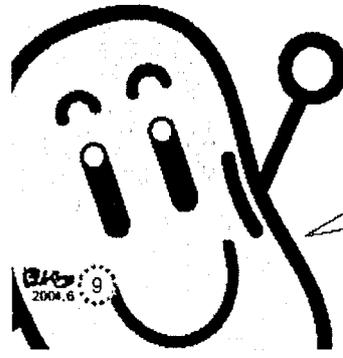
地域住民が共に助け合いながら、過剰な干渉をせず、各自マナーとモラルを持って生活するのが望ましいと思う。そのためには、行政を執行している方が先頭に立って、ボランティア活動などに取組んでほしい。また住民の目標に立った行政を行うことにより、住民にもゆとりが生まれ、地域活動にも参加できるようになると思う。今は、住民各個人にゆとりがないので、気持ちはあっても実際に行動できないと思う。まずは、行政に携わっている方がもっと真剣に、町および町民の事を考えて行動してほしい。

自分のできることをさがしていきたい

まちづくりのために、会議とかいろいろやっているのを聞いたりはしているけど、いつも同じ顔ぶれで話しているだけ。だから何も変わってない。商店街の活性化に対しても、話し合いをしているわりに、同じ内容で変わらない。もう少し若い人の意見など、取り入れたほうがいいと思う。親父たちがいくら話し合ったところで、限界があると思う。別に悪いわけじゃないけど、このまま同じでも、若い人も何に対しても参加する人も少ないだろうし、町も若い人がいなくなると思う。仕事をしていたら、町に参加することがない。企業で何か参加するものから始めれば、町の状況も分かるようになるし、人のつながりも増えていくと思う。

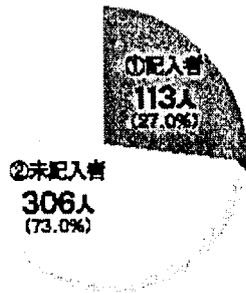
若い人の意見を...

自由回答で寄せられた意見の一部です。貴重なご意見ありがとうございました。



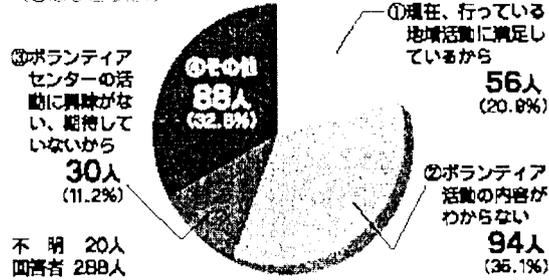
9  
2004.6

**問い21**  
 地域住民が共に助け合い支え合い、だれもが一生安心して暮らすことができる、〃一万人が家族のまちづくり〃を進めるために「どうしたらよいのか」、また、あなた自身が地域の中で「やってみたいこと」「できること」など、町民一人ひとりが主役となるこの計画づくりに皆さんのご意見をお寄せください。(自由記述)

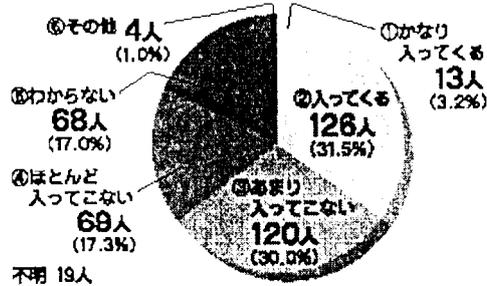


みなさんから寄せられた課題を、①分野別に分類②生活圏域における分類に整理する作業を行っています。これらの課題を解決するのが「住民」なのか「行政」なのか「社協や事業所」なのか「協働」で解決すべきなのかを整理し、8月ごろまでに地域福祉計画の体系をまとめる予定です。

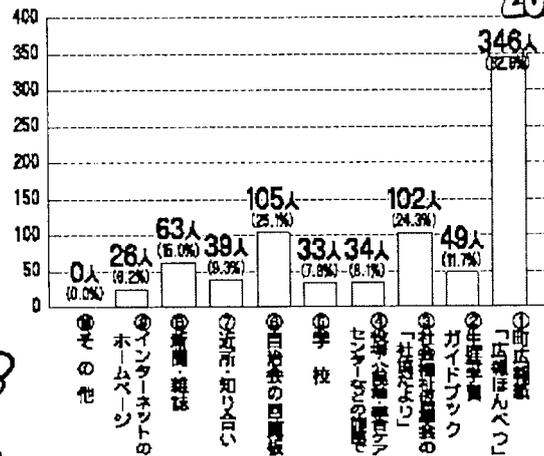
**問い18**  
 問17で②とお答えいただいた方にお聞きします。ボランティアセンターに登録して、活動したいと思わない理由は何ですか？  
 (〇はひとつだけ)



**問い19**  
 あなたは、地域活動や福祉に関する情報をどの程度入手できているとお考えですか？ (〇はひとつだけ)



**問い20**  
 あなたは、地域活動や福祉に関する情報をどのような方法で知りたいですか？ (〇は該当するものすべて)



## 地域福祉計画

少子高齢社会の到来で従来の福祉計画・公的サービスだけでは解決できない問題の解決のために立てられるのが地域福祉計画。行政の手の届かない細やかな生活ニーズを明らかにし、その解決のために行政サービスと住民による助け合いのどちらが良いのか積極的な住民参加、話し合いで解決策を作り上げます。これまでの福祉は、行政から地域住民への給付という形でしたが、「福祉は行政が行うもの」という意識を改革し、行政と地域で相互の長所を生かし、地域社会全体で協働するまちづくりを進めることが求められています。本別町は道内で唯一策定モデル自治体に指定されています。

・ 除雪の問題が出ていました。ネットと建設会社と連携してやっていく生活課題ではないか。  
 ・ ネットの対象者は、高齢者だけではなく、障害者なども対象です。  
 ・ 地域の担い手不足などがあり、地域で活動していくのが非常に難しい。  
 ・ 地域の支援を受けている人と支援する人のコミュニケーションに関しては、自治会でサロンを生かした活動があがっていました。

・ 町からの交付金がどんどん減ってきて、会費を増やさなければならぬのですが、なかなか年金生活者、無年金者、若い人、町内会に加入してない人から徴収できない。  
 ・ 町として自治会の再編についてある程度の方向性を出してほしい。  
 ・ 役員の担い手不足については、協力する気持ちを持ち、楽しみながら活動をしている。そうしなければ地域が成り立っていかない。  
 ・ 班を分けていても役員が手伝いにいかなければならない。班の再編もそこに長年住んでいる普通の付き合いなどから、なかなか思うように進まない。

・ 各自治会について事情が違うのでしようが、集まりとか、取り組みがわかれば参考になるのでは、との思いを持った。  
 ・ 大家さんがいるところでは、家賃と一緒に町内会費を徴収するといった策も挙げられていた。

・ 支援をする人を拡大するとしたらどうするかでは、ある自治会では、すでにお年寄りだけではなく妊婦さんに声をかけているという意見がありました。  
 ・ 何かありましたら、私は福祉協力員だからといって声をかけているそうです。  
**③グループ**  
 ・ 一番課題があると思われるのは、日常的な支援を受ける人と支援する人のコミュニケーションの問題でした。  
 ・ 協力員さんの中には、個人のプライベートに入ってしまうことで、相手に対する配慮が大切な仕事という意識がある。  
 ・ 推進会議を年に一度も開催していないというネットもありました。

## ④グループ

・ 町からの交付金がどんどん減ってきて、会費を増やさなければならぬのですが、なかなか年金生活者、無年金者、若い人、町内会に加入してない人から徴収できない。  
 ・ 町として自治会の再編についてある程度の方向性を出してほしい。  
 ・ 役員の担い手不足については、協力する気持ちを持ち、楽しみながら活動をしている。そうしなければ地域が成り立っていかない。  
 ・ 班を分けていても役員が手伝いにいかなければならない。班の再編もそこに長年住んでいる普通の付き合いなどから、なかなか思うように進まない。



# みんなの声で

## 地域福祉計画

# 「みんなで作る地域福祉」研修会

地域福祉計画を町民皆さんの声で創ろうと「みんなで作る地域福祉」研修会（主催：町・町社会福祉協議会）が七月二十三日、町中央公民館大ホールで開かれました。町在宅福祉ネットワーク連絡協議会、町民生児童委員協議会、町健康長寿のまちづくり会議、社会福祉協議会福祉委員メンバーなど地域福祉の担い手の皆さん約120人が集い、地域福祉座談会、住民アンケート調査で出された課題等について問題解決のための意見を出し合いました。

地域福祉計画を作り上げるためには地域のすべての福祉関係者が協力・参加することが求められ、平成十五年からは開始された作業で、これまでに講演会、座談会、アンケートなどさまざまな取り組みが展開されてきました。今回の会議は、町在宅福祉ネットワークの活動状況、地域福祉座談会、アンケート調査結果で判明した地域のさまざまな課題をみんなが理解し、その解決のために考えられることを意見交換する目的で開催され、各種報告に続いて九つの小グループに分かれた討論に入りました。

## 寄せられた意見

### ネットワーク活動について

#### ①グループ

・目まぐるしく支援されている人の情報を、在宅福祉ネットワーク（以下、「ネット」）全体で共有していくのがいいのではないかと、その情報を活用するためにネットワーク推進会議

が必要、回数的に年四回くらい実施することに開催されたい。

・活動を推進する上で、ブライパシーについて今後検討していく課題があるので。

・対象者の拡大、寄り合い活動的な部分で対象者を限定していないところもある。高齢者に限らずお子さんなども参加をしている。

#### ②グループ

・推進会議を開いているかは、会長会など定期的行事を行っているネットでは定期的に行っている。

・ふれあい世帯の情報は、どこまで行き渡っているかについては、会議を行った時に協力員さんまで行き渡っているところが多く、必要な部分だけ、協力員さんに渡して、活動に生かしてもらっている。

・実際自分が受ける側となった時には、十二項目のうちどの項目が必要となるかについては、全員が「見守り活動」を受けたいが一番になりました。

# 暮らし よくなる



## 健康長寿の まちづくり会議

町健康長寿のまちづくり会議（森岡嗣会長、21人）の平成16年度第1回会議が7月30日、町総合ケアセンターで開かれ、平成15年度各種福祉事業の執行状況報告や地域福祉計画の今後の進め方などが話し合われました。

同会議は、町が実施している高齢者や障害者の保健福祉施策に対する意見反映や事業評価、第三者的な機関として介護サービスに関する苦情調整機能を持つ住民組織として平成13年6月に活動を開始。行政、地域、社会福祉協議会など民間団体、ボランティアが協働した町民参加のまちづくり組織を目指して発足されました。苦情調整部会から、施設利用者に対する接遇改善や事故防止策の事例を報告。介護相談員の活動状況では、3人体制で年間延べ約2000件の話し相手になっている実績から「その人に合った介護がされているか、なにより心の通い合う介護が必要だ」との報告がありました。

平成15年度の事業執行状況では①介護保険給付状況②介護予防生活支援事業③障害者保健福祉事業などが報告され、現在進行中の事業の説明では①介護負担軽減を図るやすらぎ支援事業の研究②地域福祉計画策定の経過と今後の進め方③「北海道型・高齢者が住みやすいまちづくり構想」などが報告され、意見を交換し合いました。



## 在宅福祉 ネットワーク活動

平成5年、北5丁目自治会が組織し、スタートした「在宅福祉ネットワーク」活動は、現在、26組織（32自治会）に成長している。「一人の不幸も見逃さない」を合言葉に①見守り活動②友人活動③家事助け合い活動④付き添い活動⑤移動サービス活動など13項目の活動を展開しています。

ことでは、気軽に集える公共施設の申し込み・管理体制を緩和してほしい。

- ・自治会の中で誰が見守りを担当しているのか町内のお年寄りに伝わっていない。訪問しても家に入れてもらえない。きちんと周知がされなければならない。
- ・高齢者のこみ分別の問題は、繰り返し繰り返し勉強会を開き、かなりできるものになってきて、むしろ問題を抱えているのは、若い独身男性にあるのではないのか。
- ・地域のなかで課題を解決していくためには、福祉部だけではなく、衛生部ですとか婦人部ですとか自治会の中で連携をとった活動が大事。
- ・千歳から高齢者・障害者まで集える場ということでは、気軽に集える公共施設の申し込み・管理体制を緩和してほしい。

自治会は、「ここをこうしてもらいたい」という意見をきちんと出していくことが除雪の問題では大切ではないか。

・地域の中に、大層らしの高齢者が点在しており、見守る側も高齢化している中で大変。公営住宅の建て替えのときには、街中に高齢者が集まって住めるような配慮を考えていただきたい。

## 健康増進、押し売りについて

### 9グループ

健康増進のためには、お金もかからない手っ取り早いラジオ体操が良いのではないのか。地域で行っているところもあり、全体に提案してみてもいい。地域に出られない人、体の弱った人にはテープに取ってお貸しする。

・食生活改善の取り組みとして北七・八丁目では月一回の健康づくりと、三カ月に一回は、食生活改善の取り組みを促している。地域でやると体の不自由な人でも誘い合いながら出てこられる。地域の食生活改善推進員を活用した取り組みがもっと広がってほしい。

・押し売り・訪問販売についても、地域では気を付けなさいといっているのだが、自分で出て行く人は、被害者ではないという意見もありました。クーリングオフを伝える際に、高齢者は言葉の意味がわからないので、「契約解除の方法があります」というわかりやすい日本語で伝えるということが本町の福祉ではないか。

地域福祉計画に関するお問い合わせは  
総合ケアセンター  
☎21-85200へ



地域福祉計画は皆さんの声で着実に形になっていくと思っています。これからもどんどん意見、要望をお寄せください。

北8丁目自治会は有志で北地区交流センターの敷石や砂場の整備などに取り組みました



### ＜子供について＞

#### ◎5グループ

・子供の遊び場の維持は協働で行えるが、施設や遊具などの管理は、自治会では無理なので行政が主体になっていくべき。

・北八丁目では、自治会で砂場の整備、用具のペンキ塗り、遊具の修理など環境整備をすることで子供たちが遊ぶようになった。

・通学路の除雪マナーでは、行政と連携してマナーをPRしたいのでは。

・大雪が降ると歩道等の除雪が遅れるために、子供が道路の真ん中を歩いて大変危険な状況がみられている。町の業者と連携を組んで取り組んで料金協定なども含めて行政が入れば取り組んでいけるのではないかと。

### ＜環境について＞

#### ◎6グループ

・ペットの飼育マナーは、個人のモラルが大切ではないか。

・野良犬等の対策は、野良犬になる前は飼っている。野良犬になったら小地域や全町的な対策はやはり行政だろう。

・自治会・担い手の部分では、自治会と行政とタイアップしながらものごとを進めていくのがいいのではないかと。

### ＜交通・防災について＞

#### ◎7グループ

・時間が足りなくて、十分な議論ができない。もう一回このような機会がないと意見を話めていけないだろう。

・今日出席されている自治会は、災害時の安否確認など例えば地震があればすぐに対応されていて、すでにできているところが多かった。

・自治会として隣近所の地域が分かる取り組みが必要。

・避難場所は、それぞれの自治会で案内がされ、きちんとできている。

・南八丁目さんの意見をみると福祉協力員さんのほかに救護連絡員がいて若い人ですが、何かあったらその人に連絡をして必要な手をたしてもらう。救護が必要な場合、車椅子を自治会で持っているところはないと思う。行政や社協さんとも教として使用できるものはなかなか欲しいのではないかと。除雪の問題は、冬期間、農家の人のトラクターが使えるシステムがあるといい。どこかが窓口となって使える手配をしてほしい。

### ＜高齢者・障害者について＞

#### ◎8グループ

・高齢者の除雪・排雪・屋根の雪おろしが大変危険。個人で頼むのにもどこに頼んでいいかわからない、お金もたくさん掛かり、どこかでまとめて発注するというシステムができないものか。

・除雪の問題は、地域で検討していてもいいのでは。自治会などに状況も違うので、私たちの目



建設業協会や本高生の除雪ボランティアは毎年行われています

城